

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度第 3 回上越市交通安全対策会議

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 第 10 次上越市交通安全計画について（公開）
- (2) その他（公開）

3 開催日時

平成 29 年 3 月 3 日（金）午前 10 時から午前 10 時 50 分まで

4 開催場所

上越市役所木田第 1 庁舎 4 階 401 会議室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：岩崎義一、藤田義治、榎三弘、井上和広、大島真一、山室和也、笹川正吉、
福島輝男、川瀬裕之、倉石幸恵
- ・ 事務局：市民安全課 塚田部長、山田参事、浅野危機管理監、丸田副課長、小川係長、
山本主任、丸田主任

8 発言の内容

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議題

○ 議題 1 第 10 次上越市交通安全計画について

塚田部長：それでは、議事進行をさせていただきます。議題（1）第 10 次上越市交通安全計画について、まずは①上越市議会からの意見について、事務局から説明をお願いします。

山田参事：【資料 1】を説明

塚田部長：ありがとうございました。事務局から説明がありましたが、市議会の総務常任委員会から目標設定に関して意見があり、ご議論いただくことになりま

した。大きく2点あると思います。そもそも数値目標を設定するべきかという意見、それから数値目標を設定する場合、0人とすべきであるという意見です。これらについて意見交換したいと思います。いかがでしょうか。ご発言がないようですので、事務局から国と県の目標設定についての考え方を説明してください。

山田参事：国の第10次交通安全基本計画につきましては、平成32年度までに年間の交通事故死者数を2,500人以下にするという目標を設定しています。これは、平成22年に設定した中期目標である平成30年を目途に、交通事故死者数を半減させ、これを2,500人以下にし、世界一安全な道路交通の実現を目指すための目標設定となっています。県の第10次交通安全計画につきましては、案の段階ですが、平成32年までに年間の交通事故死者数を63人以下にするという目標を設定しています。これは、国の計画が平成32年までに半減させるということを踏まえ、新潟県においては、第8次計画の最終年の死者数126人を半減させることを目標にしたと承知しております。

塚田部長：ありがとうございます。今ほど事務局から説明がありましたが、国及び県におきましても人数は違いますが、死者数を目標数値に設定している状況にあります。当市の計画においては、4人以下を目指すこととしていますが、数値目標を設定することについて絞って進めていきたいと思います。上越署の榎委員いかがでしょうか。

榎委員：警察としましても県計画の32年までに63人を達成すべく、今年については、73人の目標を立てて取組を進めています。目標については、見方によって変わってくると思います。0人にすべきと意見もあると思いますが、昨年県内で107人亡くなっている中で、翌年は0人にするというのは厳しいという意見もあると思います。何人以下にするということで取り組んだ結果として0人であったことで成果が認められるところもありますので、それぞれで意見が変わってくると思いますが、取組としてはある程度目標を設定した方が良いのかと思います。

塚田部長：ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

福島委員：数字で示すべきだと思います。0人とするのは、どのように考えているのか理解できません。目標であるので、数字で示すべきだと思います。国や県についても、数字で示しているわけですから、目標は数字で示すべきだと思います。

います。

塚田部長：ありがとうございました。その他いかがでしょうか。お二人からご意見をいただきましたが、数値目標を設定し努力すべきといったご意見だと思います。続きまして、現在4人以下という目標を示しておりますが、0人にすべきと議会から意見が出ております。事務局から4人以下にした理由を改めて説明してください。

山田参事：目標を4人とした理由について、ご説明いたします。現状を見ますと、平成24年と26年に死者数が過去最低の5人となったものの、平成25年は13人、昨年28年は12人と増加に転じているところであります。そうしたことから、10次計画の目標については、当市における交通事故死者数の実態を踏まえた現実的な数値目標とすべきであると考えており、「年間の交通事故死者数を4人以下とする」ことを目標にすることが適当と考えております。

塚田部長：ありがとうございました。先ほど、市長のメッセージにもありましたが、今年には既に1人の方が亡くなっています。そのような中、過去の実績を踏まえて4人以下にする目標数値を設定したわけですが、0人を目標にするのが妥当であるかご意見をいただきたいと思います。笹川委員いかがでしょうか。

笹川委員：上越市の管内の環境から見た場合、4、5人は厳しいのではと思います。私としては、6人くらいが妥当ではないかと思っておりますが、現実的な目標であるのか、抑止目標としてとらえるのかによって違うと思います。抑止目標であれば4人で妥当であります。現実をとらえた場合は、5、6人が妥当ではないかと思っております。

塚田部長：ありがとうございました。目指すべき目標なのか、現実を踏まえての達成目標なのかとのいうお話でありました。事務局としての考え方を説明してください。

山田参事：平成24年と26年に過去最低の5人であったことから、目指すべきはそれ以上と考え、4人としたところです。

塚田部長：二つの側面を持った目標であると考えます。他にご意見があればお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。3名の方からご意見をいただきましたが、まとめますと数値目標の設定は必要であること。人数につきまして、過去の実態を踏まえ、目指すべきところ、また、達成可能な目標との観点から4人以下が妥当ではないか。0人は現状からすると難しいのではないかと

というまとめでよろしいでしょうか。

－ 全委員了承 －

塚田部長：それでは、第 10 次交通安全計画の目標については、4 人以下にするということにさせていただきますが、よろしいでしょうか。

－ 全委員了承 －

塚田部長：ありがとうございました。続きまして議題の②パブリックコメントの結果について、事務局から説明をお願いします。

山田参事：【資料 2】を説明

塚田部長：ありがとうございました。市が行いましたパブリックコメントで、お二人から 3 件のご意見の内容と市の考え方を説明していただきました。いずれも計画に記載済みであり、計画の修正は行わないとしていますが、何かご指摘があればご発言いただきたいと思います。無いようであれば、ご了承いただけたものと理解させていただきます。続きまして議題の③素案からの変更点について、事務局から説明をお願いします。

山田参事：【資料 4】を説明

塚田部長：ありがとうございました。大きな変更点は 2 か所で、雪に関する記述の追加と、病院等の取組については、市の取組に絞って記載したところですが、それでは、ただ今の説明について、ご質問、ご意見があればご発言をお願いします。

藤田委員：冬期における道路交通環境の整備について、除雪、消融雪設備の充実等に、消融雪施設等の整備を図りますと記載がありますが、県では消雪パイプの新設をしないことになっています。この記載では危険な箇所には消雪パイプを整備しなくてはならなくなる危惧があるので、どう調整すればよいのかと考えているところですが。

塚田部長：ありがとうございました。この部分の記載については、高田河川国道事務所、振興局、当市の 3 者が関係しますが、高田河川国道事務所で消雪パイプや融雪設備を整備する予定はありますか。

岩崎委員：8 号線や 18 号線の幹線道路で消雪パイプが敷設されている場所は記憶がありません。ただ、駐車帯などには敷設されていて、それらの更新については、この記述で影響がないと考えています。

塚田部長：ありがとうございました。上越市はいかがでしょうか。

川瀬委員：合併前上越市については、新たな井戸を掘ることができないことから消雪パイプの新設は行わず、改良は行っていると思います。

塚田部長：新設ではなく更新を含めた整備については、各団体で実施している状況だと思います。それらを踏まえて、この表現でよろしいか、整備を維持管理に修正することも可能だと思いますが、いかがですか。事務局として、整備には新設の意味合いが主なのかもしれませんが、維持管理も含むと考えてよろしいでしょうか。

山田参事：事務局としましては、維持管理も含めて整備と表現しています。新設にとられがちであれば、整備・維持管理という表現に修正するかにつきましても、この場でご議論いただければと思います。

藤田委員：事務局から提案があったように、整備・維持管理と併記して、両方に読み取れる表現にするのも一つかと思えます。

塚田部長：併記をするとご意見がありましたが、事務局として他の部分の表現との整合で問題はありますか。

山田参事：事務局としましては、ほかに影響することがございませんので、整備・維持管理というように併記させていただきたいと思えます。

塚田部長：雪崩危険箇所等の解消の記載にも、防雪柵等の整備を図りますと記載があります。他で整備と表現している部分と整合も必要ですが、懸念はないでしょうか。むしろ、併記するより維持管理と表現したら整合がとりやすいのか、事務局どうでしょうか。

山田参事：他にも整備という表現が多く使われており、新設や維持管理も含めて整備という表現を使っていることから、整備と表現させていただきたいと考えています。

塚田部長：整理しますと、整備という表現には新設だけではなく、維持管理、更新等も含むという意味合いで、計画全体で使っているということです。この表現でよろしいか、別の表現に修正するかがでしょうか。

福島委員：整備は、新規の意味合いが強い。整備等の表現にすればよいのではないのでしょうか。

山田参事：先ほども説明しましたように、事務局としましては、整備という考え方については、新設と維持管理を含めております。計画書の中には、新設と維持管理を含めた表現が数多くあることから、整備という表現のままにしたいと

思いますし、表現が強いということであれば、他も含め整備等に修正させていただくことになります。

塚田部長：整備といった場合、新規という意味合いが強く受け止められるというご意見がありましたが、計画の最初に整備という言葉が出てきた部分に、整備や維持管理とし、以下整備というように明記する方法もありますが、ご意見をお願いします。

大島委員：消融雪施設等とは、消雪パイプだけの施策ではないと思います。例えば、ロードヒーティングや凍結防止舗装技術についても年々技術が向上してきていますので、それらを含むのであれば、このままで支障ないと思います。整備という字は、備えるは新設になりますし、整えるは維持管理になることから、この表現で問題ないと思います。

塚田部長：ありがとうございます。このままだでもよろしいのではないかとのご意見をいただきました。消融雪施設等と表記している等の部分については、幅広くそれらの整備ということで理解できるのではないかとと思いますが、問題提起いただいた藤田委員いかがでしょうか。

藤田委員：表現については、やぶさかではないのですが、消雪パイプの設置要望があった時に、地下水確保の観点からも新設はしないと説明していることから、計画書と整合が図られない可能性もあることから意見させていただきましたが、この会で、消融雪施設については、維持管理はするが新設はしないと認識をしていただければ問題ありません。

川瀬委員：上越市では、消融雪施設整備計画という計画があります。27年3月に策定したものです。内容としましては、主に更新ですが、整備計画としていることから、この表現で問題ないと考えています。

塚田部長：ありがとうございます。今ほど、ご意見を踏まえたと、整備の表現については、このままということ、消雪パイプの新設については、地下水の確保の観点から行っていない実態と、既設については、維持管理を計画的に進めていくことを踏まえたものであるという理解を皆様で統一するというところでまとめさせていただきます。よろしいでしょうか。

－ 全委員了承 －

塚田部長：その他よろしいでしょうか。ご意見も出尽くしたようですので、第10次交通安全計画について、この場で決定したいと思います。この計画につきまし

ては、原案のとおりご承認いただけるということでよろしいでしょうか。

－ 全委員了承 －

塚田部長：それでは、決定とさせていただきます。続きまして議題の(2)その他であります。事務局何かありますか。

山田参事：特にございませぬ。

塚田部長：せっかくの機会でありますので、委員の皆様から何かありますか。特に無いようであれば、本日予定した議題はすべて終了しました。活発なご議論いただきまして、ありがとうございました。

(4)閉会

9 問合せ先

防災危機管理部市民安全課防犯・交通安全係

TEL：025-526-5111（内線 1463）

E-mail：shimin-anzen@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。